

きゃらきゃら本舗



栄一 語録

ビジネス
マン必見!?

渋沢栄一は
おもしろい!

栄一の経歴

渋沢 栄一（しぶさわ えいいち）1840年3月16日～1931年11月11日

埼玉県深谷市の藍玉と養蚕を営む半農半商の家庭に生まれる。幼少より商売と論語などの中国古典を学ぶ。

後に幕府の目にとまり、平岡円四郎の推挙により徳川慶喜の家臣となる。

パリで行われる万国博覧会に将軍の名代として出席する慶喜の弟昭武に随行してパリ万博視察。

後昭武はヨーロッパ各国を訪問、パリに留学する。

帰国後、大蔵省に入省。第一国立銀行や東京証券取引所など多くの企業の設立・経営に尽力。

初の民間銀行第一銀行を設立し、日本資本主義の父といわれる。

社会活動に熱心で、東京慈恵会、日本赤十字社、癩予防協会の設立などに携わる。



最も重んずべきは

信である。

信を守らねば

たちまち

失敗す。



夢なき者は理想なし

理想なき者は信念なし

信念なき者は計画なし

計画なき者は実行なし

実行なき者は成果なし

成果なき者は幸福なし

ゆえに幸福を求むる者は

夢なかるべからず。

一人ひとりに天の使命があり、

その天命を楽しんで生きることが、

処世上の第一要件である。



有望な仕事があるが資本がなくて困るという人がいる。だが、これは愚痴でしかない。その仕事が真に有望で、且つ、その人が真に信用ある人なら資本ができぬはずがない。愚痴をこぼすような人は、よしんば資本があっても大いに為す人物ではない。



人を見て
万人一様なり
とするには
一理ある、
万人皆
同じからずと
するのもまた
論拠がある。



事業には信用が第一である。

世間の信用を得るには、世間を信用することだ。
個人も同じである。自分が相手を疑いながら、
自分を信用せよとは虫のいい話だ。

信用は実に資本であって

商売繁盛の根底である。



富を成す根源は
何かといえは、
仁義道徳、
正しい道理の
富でなければ、
その富は完全に
永続することができぬ。
論語（義・倫理）と
そろばん（利益）は
両立する。



男はいかに丸くとも、
角へかどしき
持たねばならぬ。
金は
ホロに包んでも
金だが、
石は
錦に包んでも
石。



栄一語録

<http://p.booklog.jp/book/59174>

著者：きゃらきゃら本舗

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kodo341/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/59174>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/59174>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ